

関係機関訪問第 5 弾

帯広近郊就労系障がい福祉サービス事業所への聞き取り調査をスタートしました！



令和 2 年 8 月 26 日 (水)
特定非営利活動法人
とかち共同作業所 (帯広市)

令和 2 年 8 月 27 日 (木)
就業継続支援 B 型事業所
どんぐりの家 (音更町)

令和 2 年 9 月 1 日 (火)
有限会社くさなぎ農園
(帯広市)

特定非営利活動法人 とかち共同作業所(B型)

社会情勢が変化する中でも、個別の支援の軸が揺るがない関わりのスタンスについてお話を伺うことが出来ました。その一例として、コロナウイルス感染拡大予防により作業活動を分散している状況がある中で、現在活動のない時間にも一工夫の関わりを持ち、支援の厚みを変化させない取組みを行っている経過や、日々関わりを継続し、その積み重ねを大切にしているとお話をお聞きました。

また、制度が次々に移り変わっている状況に対し、障がいをお持ちの方の権利擁護や自己決定の尊重の視点について、障がい者総合支援法によるサービスの在り方やその意義等について熱く語って頂きました。



職業指導員の久田さん(左)、理事長の澤田さん(中央)、サービス管理責任者の住友さん(右)にお話を伺いました

就業継続支援 B 型事業所 どんぐりの家(B型・地活)

今回の訪問では、開設当初、作業所だけの町委託事業を NPO 法人として継続運営してきた経過や、その中での苦労等も含めお話いただきました。現在は、知的障がい・精神障がいをお持ちの方の利用が主で、高齢化が進んでいるため、より専門性のある関わりの必要性を感じていらっしゃるようです。その様な中、4 月からは職員体制等も代わり、専門職の職員も増え、15 名の利用者の方々に十分な対応が出来ているとお話し頂きました。また、コロナウイルスによる影響については、職員・利用者の皆さんが先の見えない不安な状況の中で、休業せずに活動できたそうです。マスクや消毒液の確保はもちろん、利用者さんの「ここにこれる」という生きがいを奪わない様、職員が工夫し関わってくれたおかげと、浜井理事長はやさしい笑顔でお話し下さいました。



理事長の浜井さん(左)、主任職業指導員の加藤さん(中央左)、柳田さん(中央右)、帰山さん(右)にお話を伺いました

有限会社 くさなぎ農園(B型)

くさなぎ農園は、帯広市街から離れた八千代の自然に囲まれた中にある就労継続支援 B 型とグループホームを運営する事業所です。くさなぎ農園といえば養鶏と養豚の農業というイメージがありますが、それらの活動は勿論のこと、羊毛を活用した加工製品にも力を入れており、完成した製品は市内のホテル等でも販売されているとのことでした。代表取締役の草薙さんは学生時代より、農業と障がいをお持ちの方に関わってきており、開設からこれまで、試行錯誤してきた就労支援の歩みを教えていただきました。また、八千代にあるということでの通所の難しさがあることや、休止している A 型事業所は利用希望者が充実していけば今後も取り組んでいきたいという思いも聞かせていただきました。



代表取締役 草薙司さん(左) サービス管理責任者 草薙朋子さん(右)にお話を伺いました